昭和40年8月8日第三種郵便物認可（毎月8日、15日、25日発行）

1968年7月15日　第139号

戦旗

☆反帝闘争を
プロレタリア日本革命へ！
☆プロレタリア世界革命の旗の下
共産主義者同盟に結集せよ！
共産主義者同盟

7月15日
第139号
編集発行人　杉村宗一
一部20円

購読料　2カ月分　400円
郵便振替　東京7100番　1カ月分　200円
3カ月分（1部に付）　600円

戦旗社
東京都千代田区神田錦町1-8
電話代表（292）0849
振替（東京）26110

大阪支局　大阪市北区曾根崎新地通り1-18（電話（06）361-5917）
京都支局　京都市左京区吉田牛ノ宮町10-2-201（電話（761）0025）
名古屋支局　名古屋市東区（732）3553

■7月16日／麻布米軍ヘリポート撤去闘争
（午後6時・六本木三河台公園）
■7月17日／社学同全国政治集会
（午後6時・新宿文化会館）
■7月19日、20日／全学連大会
（午前10時・中大中執）、午前10時・東大安田講堂）
■7月26日／三木訪豪阻止中央決起集会
（午後6時、日比谷公会堂。キューバ革命十周年記念会／午後6時、両所）
■7月27日／三木訪豪阻止羽田実力闘争
■8月3日／国際反戦集会
（午後1時、中大大講堂）

プロレタリア国際主義の下 全学連の革命的再編をかちとり

7・27三木訪豪阻止 8・3国際集会へ！

中核派の全学連逃亡を弾劾し 反帝全学連の戦列を強化せよ

七・一七社学同全国政治集会
七・一八都学連／社学同全国委員会
社会主義学生同盟全国委員会

日帝のアジア侵略反革命 ASPAC粉砕 反戦全学連の総力で羽田実力阻止!!

70年安保 70年代階級闘争とプロレタリア国際主義

全学連大会への
われわれの主張と中核派

全国の学友は全学連大会（7／19、20）に総結集せよ

委員長 秋山を罷免

7・8全学連拡大中央委員会

七月五日、法政大学において開かれた全学連中央執行委員会の決定に基づき、本日の拡大中央委員会に次の事を提案する。

一、委員長秋山の罷免に関する提案

二、委員長代行に関する提案

一、全学連第十九回大会の日程（七月十九日中央大学駿河台記念館、午前十・〇〇～午後八・〇〇）の確定に関する提案。従って七月十四日～二六日の「全学連大会」は一切認められないこと。

二、全学連大会開催にむけて、大会実行委員会の選出に関する提案。

全学連の闘う学友諸君！

われわれは、全学連大会の開催にむけて、大会実行委員会の選出を提案する。

二〇人の出席者の過半数の賛成をもって、大会実行委員会は成立する。

九月一日の全学連大会は、全学連の闘う学友諸君の参加によって、はじめて成立する。

今こそ、七年安保闘争の地平を継承し、全学連の闘う学友諸君の参加によって、九月一日の全学連大会を成功させよう。

一〇・八闘争の地平を継承し、全学連の闘う学友諸君の参加によって、九月一日の全学連大会を成功させよう。

一九六八年七月一日

全学連
中央執行委員会

（一面に続く）

国際反戦集会の意義

国際階級闘争の高揚に プロレタリア国際主義の内実を！

米帝の相対的地位の低下、西独、日帝の抬頭――この帝国主義世界の不均等発展は、後進諸国人民の不屈の反帝闘争とあいまって、帝国主義的対立の激化と帝国主義の危機をかつてなく強めている。

そして、米帝の一元支配の崩壊、各国帝国主義独自の侵略反革命の路線形成と交錯、対立、という戦後帝国主義の新しい局面は、国際階級闘争を規定し、それに新らしい変化を与えつつある。

レーニンは、帝国主義的争闘の激化という国際情勢の中で、かつて、次のことを指摘した。

「社会主義的日和見主義は、それ階級闘争を否定し、社会平和をとき、社会主義革命を否定し、非合法組織を原則的に否定し、ブルジョア帝国主義をみとめようとするなどの傾向を生みだした」（「日和見主義とインターの崩壊」）

「社会排外主義の基本的な思想的政治的内容が日和見主義の基礎と完全に一致することは、まったく明らかである。それは同一の潮流である。」（「第二インターの崩壊」）

即ち、日和見主義は、帝国主義的対立の激化、内的危機の外化としての侵略反革命という帝国主義的争闘の全面化の中で、自らを社会排外主義に転化させ、その「階級闘争……に励むか、それとも、自国ブルジョアジーの危機をおしすすめ、その破綻・敗北を追求するのか、すなわち社会排外主義と自国帝国主義打倒＝プロレタリア国際主義の二つの対立、革命と反革命の対立に鮮明化させずにはおかない。

われわれは、七〇年代階級闘争のかかる性格を解明し、「帝国主義の侵略・反革命と対決し、国際的階級危機を世界革命へ」の旗の下、全世界プロレタリア人民による同時的な自国帝国主義打倒のプロレタリア国際主義の戦略を断乎として目ざさねばならない。

この戦略に基づき、共産主義者同盟は、党的展望としての世界党建設を展望しつつ、第七回大会において、国際部を確立し、そのための現在的任務を次のように規定した。

第一に「世界革命の任務の一環」としての国際部の設置であり第二に、その任務はわれわれが国際共産党を今ただちに成立宣言できず、しかし、その要求が死活である今日、「全世界に戦略的基準を持った、生きた交通形態の生産こそ先決である」ことであり、第三にその活動内容は「（A）単一共産党形成―国際共産主義運動の戦略的統合のための統一戦線――党派闘争の日本における拠点であって、（B）国際的な運動の環―反帝反政府闘争の国際的反戦闘争の党レベルでの意志統一の形成が常に実践に問われ、（C）大衆組織、ことに全学連などによって推進さるべき反戦インターの組織として展開せしめるに到る国際情勢連絡の中枢である」

それゆえ、第四に、その活動の質は、第4インター系の単なる紹介や、没主体的な外国運動に対する拝拝とは無縁であり、また中国派にみられる出先機関とは異質である。更に第五に、ソ連・日共に見られる自己の没国際性――国際級闘争論と人民戦線＝議会主義コースを左翼的スクリーンでおおうための大衆操作的国際連帯と決定的に対立する。

そして、共産主義者同盟は、まさに、かかる基本路線の具体化の第一歩として「八月国際反戦集会」を設定し、四月以降、国際部員の欧米、アジア、中南米派遣をも含めて、その圧倒的な成功のために精力を傾けてきた。

全国の青年労働者諸君、革命的インテリゲンチャ諸君。

帝国主義の侵略反革命に抗し、全世界的なプロレタリア国際主義の戦列をうち固めるために「八月国際反戦集会」に成功させようではないか。

われわれは、諸君と共に世界各国において、社会排外主義が崩芽を示し、且つ、スターリン主義が、この一翼に転落していること、

だが、これら社会排外主義、スターリン主義を拒否したところの……

（C）69年NATO、70年安保粉砕……を闘う日、米、欧の統一……

そして、これらをふまえ……的獲得目標を最低、次の……定し、そのために全力……ではないか。

（A）10・21を、ベトナム、NATO、七〇年安保粉砕の……戦闘争としてかちとる……

（B）来春の佐藤訪米……羽田―ワシントンの共……阻止すること。

ゲートへ戦闘的デモ

茨大射爆場闘争

【茨城大分局】「水戸射……撤去！原燃再処理工場設……6・29闘争」が、茨城大……の学友を先頭にして闘……た。

二九日午後の茨大学内……右翼・学校側が「他大学……入れない」ために、正門……ての門の閉鎖―全教官の……―右翼の妨害等、茨大闘……めての緊迫した雰囲気の……五〇名の学友を結集して……れた。これまで茨大の……運動をきずきあげてき……書記局の基調報告の後……表として明大学生会中……東京反戦の佐藤世話人から……の挨拶があった。集会後、学友を加えて五〇名の茨大生（三〇名）、さらに福島医大に乗り込んだ。阿字ヶ浦駅の決起集会では、日中友好協会（正統）と地元高校生・勝田市……

……をとりはらったゲートは固くとざされ、機動隊が反対側にうごめいていた。五時過ぎ、自衛隊勝田駐屯所から勝田市繁華街へむかった。機動隊百名の恫喝をうけながらも、県下初めてのジグザグ・うずまきデモをかちとったのである。勝田駅構内では、多くの労働者が見守る中で総括集会を行なった。そして射爆場撤去・再処理工場阻止にむけて、さらに工場ビラ等の啓蒙―組織活動を続けていくことが確認された。

……装実力闘争として闘い抜く……の諸点である。

……の戦闘的労働者、学生諸君……二七ASPAC闘争を断平として闘い抜き、その闘いの質を「八月国際反戦集会」に結……！本格化し全面化しつつある帝国主義的争闘、帝国主義的ナショナリズムとそのうずの中への巻き込みに抗し、社外排外主義をうちやぶるための全世界的階級闘争の結合―プロレタリア国際主義――自国帝国主義打倒にむけて、その画期的一歩をふみだそう！

成田現地報告

6月30日、全国から闘う労働者・学生が、四千名結集し、水準測量―ボーリング阻止の決意をうち固めた。この6・30闘争は、成田決戦が……員によって行なわれている。

官憲・公団は、11日には、芝山に侵入して、これを行なおうとした。急を聞いて馳けつけた反対同盟員・現地派遣団三〇〇名は、激しく抵抗し、財産査定を阻止しようとした。これに対して官憲（機動隊三〇〇＋覆面した私服五〇）は、激しいテロ・リンチを行ない、菅沢一利老人行動隊長以下、反対同盟一人・その他成田闘争の記録を作るために撮影していた小川プロのカメラマンまで不当逮捕し、カメラマン一人を入院させ、朝日新聞の記者をも殴りつけて負傷させるという気違いじみた暴挙に出た。

近づくにつれ、機動隊の襲撃・テロ・リンチが横行し、強められる成田現地にあって、現地反対同盟の最終的意志統一を促すものであった。

官憲はそれ以降もますます卑劣な攻撃を現地反対同盟と派遣団に加えているが、不当逮捕者を出しながらもゲリラ……

現在、財産査定は、横堀地区を残すのみとなり、七月末―八月初旬に予想される水準……

日大 理工学部もスト 夏休みはねのけ

【日大分局】六月十九日、日大当局は、19項目からなる日大刷新案を新聞紙上に発表した。

「刷新案」の内容は、極めて一般的抽象的なものであって、これを読んだ学生は、ますます闘いの決意を固め、ついに、七月六日には、理工学部もストに突入した。

大学当局は、この「刷新案」で、夏休み前の学生戦線を切り崩し、戦線分断を計ろうとしたわけだが、それどころか、いよいよ闘う戦線を拡大させたわけである。

だが、日大闘争を内面から検討した場合、現在、克服すべき重要な課題が横たわっていることを確認しなければならない。

第一に、闘いは、バリケードという極めて高度な戦術が論理化されず、危機感と悲愴感というい まだ非論理的なものにすぎず、サンディカリズムに落ち入る可能性を充分に含んでいること。

第二に、闘争の質が、学園民主化という域を出ておらず、そのスローガンも、①理事者は総退陣せよ、②許可制の撤廃、③経理を全……

……的政治闘争・革命的反戦闘争との関連を鮮明にさせつつある。

そして第二に、日大闘争を全人民的政治闘争の一環としての個別闘争として位置づけることを通して、闘争の本質は、前近代的横暴云々に対する民主化云々ではなく、まさに、社会的階級的闘争であることを自覚させ、かかる闘争として目的意識的に推進させつつある。必要なことは、日大闘争の団結の質を、改良主義的経済主義的なそれから、上からの大胆な政治路線の持込みによって、政治的な団結の質に止揚することである。

一五〇名の支援集会

兼六館労組へ

前号既報どおり、都内千代田区の兼六館出版労組の闘いは、地区の労働者の支援と連帯が強化され、勝利へむかって進んでいる。事実経過のあらましは次のとおり。

去る六月三日、同社西村取締が労組委員長の「傷害」事件をデッチあげ、六日会社側は委員長に解……

会社側はこれに恐怖し、七月一、二日の第一次・第二次団交が決裂―スト突入となるや、同三日午前〇時・九時・十一時五十分の三度にわたって官憲を導入、九名を不当検挙した。組合員は、支援労働者とともに怒りをこめて、あくまでも不当解雇撤回へむけて闘いを続けている。

国際集会ニュース

前号において、われわれとともに「プロレタリア国際主義の旗の下」日本階級闘争を闘う部分の結集によって、かちとられた「八月国際反戦会議日本実行委員会」は、既に具体的宣伝・組織活動に入り、全国の闘う労働者、学生、インテリゲンチャの衆目と期待を集め始めている。

集会の要領は左記のとおりである。

記

①七月二五日午後六時　千代田公会堂（入場カンパ百円）主催日本キューバ文化交流研究所「キューバ革命十周年記念前夜祭」

②七月二六日午後六時　日比谷公会堂（入場カンパ百円）主催……

70年安保＝日帝の侵略反革命とプロレタリア統一戦線

中核派の日米運命共同体論＝修正主義国家論

……的諸関係がどうあれ、その質……アジアをめぐる、米帝への世……と、中国―後進国……への反革命との……

第二の問題は、日帝のアジア侵略反革命の対外路線がとり結ぶ対外的諸関係と、それが形成する日帝の対外的危機は、内在化され、その基軸の系統的発展による国内階級闘争の深化→日帝の内的危機に転化されなくてはならない。

従って、我々の路線の基軸とその系統性は、日帝のアジア侵略・反革命粉砕→日帝打倒→プロレタリア独裁として設定されなくてはならない。

アジアをめぐる世界分割戦の中で形成される日米両帝国主義の対……

……とする国際階級闘争の結合と、帝国主義国における攻撃型階級闘争の形成が、過渡期世界の特徴である。これを、世界的次元における……の打倒とプロレタリア独裁の実現（社会主義の条件）へ高めぬく国際的任務を、帝国主義国たる日本において実現していくという、世界＝一国同時革命とプロレタリア国際主義として、我々は、日帝のアジア侵略反革命粉砕→日帝打倒→プロレタリア独裁という路線を展望するのである。

そして、8/3国際反戦集会は……

かかるプロレタリア国際主義を、全世界的に物質化していく国際的統一戦線である。

中核派は、「米帝の危機→帝国主義「世界体制」の危機→日帝の危機」の把握の上に、「70年安保＝日米同盟粉砕→日帝打倒」を展望する。これは、日米反革命同盟の中に内包されている最も鋭い矛盾、即、アジアをめぐる世界分割にかかる統一不可能な対立を安全に隠蔽するものである。そして、この日米両帝国主義の対立、外的危機が全面化する中で、これを媒介……

として、日本に於ける反革命＝帝国主義ナショナリズムとファシズムの結合が形成されていくのに対し、プロレタリアートを武装解除するものである。

我々は、70年安保を、日帝の総路線との関連において、70年安保＝日帝のアジア侵略反革命の強化として把握して闘かっていく。日米反革命同盟に対決する全アジアプロレタリアート・人民の力は、日本プロレタリアートによって、日帝打倒へと集中されていかなくてはならない。

ってかわり、世界支配＝国際帝国主義の擬似的統一性保持の責任を……

発展は独占にむかっており、したがって一つの全世界的トラストにむかっている、という命題に帰着するであろう。これは争う余地がない」……『帝国主義論』）ということであった。しかし、こんなことをいっても「まったく無内容」なのである。「帝国主義の不均等発展という、それ自体あたりまえな法則」（前進・三九一号）とは、以上のことを認めた上で次のように受けとめられなければない。「もし二十世紀の初めにあたる歴史的に具体的な時代としての金融資本の時代の『経済的』諸条件について語るなら『超帝国主義』という死んだ抽象（これはもっぱら現存する諸矛盾の根底から人々の注意をそらせようとする反動的な目的に役だっている）にたいする最良の答は、この抽象に現代の世界経済の具体的な経済的現実を対置することである……超帝国主義についてのカウツキー……

……（における）を明らかにし、全人民……きている。

「八月国際反戦会議・予備会議」……